

2018年8月30日

慶應義塾大学先端生命科学研究所

第一生命保険株式会社

## 慶應義塾大学先端生命科学研究所と第一生命が包括連携協定を締結 ～協定第1弾として、第一生命が同研究所発のメトセラへ投資を実施～

慶應義塾大学先端生命科学研究所(所長:富田 勝、以下「先端研」)と第一生命保険株式会社(代表取締役社長:稲垣 精二、以下「第一生命保険」)は、先端科学技術を活用した社会課題の解決および地域社会の発展に貢献することを目的とした包括連携協定を締結しました。

また、本日、同連携協定の一環として、第一生命保険は、心不全向けの再生医療等製品の研究開発を行う先端研発のベンチャー企業、株式会社メトセラ(代表取締役:岩宮 貴紘、野上 健一、以下「メトセラ」)に対し1億円の投資を実施しました。

### 1. 包括連携協定項目

- (1) 先端科学技術を活用した産業振興および社会実装の推進<sup>1</sup>
  - ・先端研発のベンチャーと第一生命保険との事業化に向けた共同実証実験
  - ・事業化へ向けたシード段階からの資金サポート
- (2) 社会課題の解決に向けたイノベティブな人材育成
  - ・「Society5.0」の実現に貢献できるイノベーター育成における協力
- (3) 地域社会の活性化等に関する共同取組

### 2. 包括連携協定締結の背景と目的

先端研は、2001年4月、鶴岡タウンキャンパス(山形県鶴岡市)に設置された本格的なバイオの研究所です。最先端のバイオテクノロジーを用いて生体や微生物の細胞活動を網羅的に計測・分析し、コンピュータで解析・シミュレーションして医療や食品発酵などの分野に応用しています。先端研はこのようにITを駆使した「統合システムバイオロジー」という新しい生命科学のパイオニアとして、世界中から注目されています。

第一生命保険は、健康寿命の延伸やQOL向上等を目指した価値創造・顧客体験に向けて、先端テクノロジーの発掘、事業化に向けた様々な連携を行っていきます。今回の包括連携協定を通じて、InsTech<sup>2</sup>による先端テクノロジーの社会実装を加速させるとともに地域経済エコシステム構築に貢献し、イノベーションをリードしていくことを目指します。

<sup>1</sup> 第一生命保険では、2018年4月に新たな価値創造・顧客体験の実現等を目指した新組織「Dai-ichi-Life Innovation Lab」を渋谷に設置し、機動的に小規模な実証実験を行う体制を整備しています。また、戦略的ベンチャー投資枠の活用に加え、インパクト投資(運用収益の獲得と社会的インパクトの創出(社会の構造変化等)の両立を意図して投資判断を行う投資手法)を通じて、積極的にベンチャー企業への資金供給・事業支援に取り組んでいます。

<sup>2</sup> InsTechとは、保険ビジネス(Insurance)とテクノロジー(Technology)の両面から生命保険事業独自のイノベーションを創出する活動であり、最優先の戦略課題として、第一生命グループ全体で推進しています。外部の開発力・アイデアを積極的に取り入れ、他業態との連携(エコシステム)を実現しながら、生命保険業界全体のイノベーションをリードしていくことを目指します。

### 3. メトセラへの投資概要

メトセラは、同社が研究を通じて発見した、心不全の治療に適した線維芽細胞群(VCF)を活用し、安全かつ低コストで提供可能な新たな心不全向け再生医療等製品を提供することを目指しています。

高齢化や生活習慣病の増加に伴って心不全患者は世界的に増加しており、医療費の増大にも繋がっています。メトセラは、従来の治療法では十分な治療効果を得られなかった患者に対して新たな治療手段を提供するとともに、社会保障費の負担軽減において高い役割を果たすことが期待されます。

当社は、本投資を通じて高い投資収益を期待するとともに、新たな心不全向け再生医療の確立に向けたメトセラの事業を資金面からサポートします。

#### <会社概要>

商号	株式会社メトセラ
本社所在地	山形県鶴岡市
代表者	岩宮 貴紘、野上 健一
設立	2016年3月
事業内容	線維芽細胞を用いた心臓疾患の治療方法の研究・開発

先端研と第一生命保険は、ともに先端テクノロジーを活用した事業化を推進し、健康寿命の延伸やQOL向上等の社会課題の解決を目指すとともに、地方創生、地域活性化に貢献していきます。